日刊 動労千葉
81.6.17
No.767
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

銚子支部組合員の皆さんに訴える

すでにみなさん、お聞き及びのとおり、銚子支部は六月十五日執行委員会を開催し、
①、六月二十日に臨時大会を開催する。
②、臨時大会へ提起する執行委員会としての組織方針として「銚子支部は動労千葉に結集する」ことを【賛成7・保留3】で可決決定しました。

銚子支部は、二年有余にわたり組織的方向性を決められないまま、組合員一人一人が全くの無権利状態におかれる中でお互いに苦闘してきました。この間十二名の仲間が国労へ脱退するという不幸な事態も経験する中で、本年一月二七日臨時大会では「動労本部としての業務再開」なる旧執行部方針を満場一致否決し、銚子支部の大同団結を求めて現在の執行部を選出し、全体でこれに協力する事を確認してきました。

こうして確立された現執行部は、動労「本部」―三信ビルの銚子支部を分裂させ解散に導びこうとする様々な妨害をはねのけ、三月闘争、八一春闘を経験する中で、現在かけられている国鉄三五万人体制合理化攻撃と対決し、銚子支部の利益を守り、銚子支部として大同団結する道は「動労千葉へ結集する事が最良の道である」との方針を確立するに至ったのであります。

動労「本部」に未来はない！

一方、動労「本部」は、〃動労千葉解体〃を組織方針として、三信ビルに東京地本の革マル分子を送りこみ、銚子支部を動労千葉破壊の出撃拠点とすべく様々に画策してきました。昨年十二月の「業務再開」路線はその一つのあらわれであります。

動労「本部」は、この「業務再開」路線の破産にもかかわらず一月三十日無理矢理「再建地本」をデッチ上げはしたものの、いまだにまともな団体交渉も出来ず、協約・協定は全て〃三信ビル代表＝東京地本・緒方某〃の名でむすんでいる状態であり、組織人員も八十名そこそこといわれ、その上、組合員名簿さえ明らかに出来ない有様です。

しかも、〃八十名〃といわれる「本部」派組合員にしても、その多くは他局からの短期転勤者および定年間近かの人達であって、一～二年もすれば組織人員が五十名を割り、労働組合組織と云えない状況に転落することは目に見えています。

こうした組織的減少を補充すべき新採獲得にしても、一九八一年度はゼロであり、期待していた仙台、盛岡からの帰任者にしても、仙台からの帰任者四四名が一夜にして二八名も動労千葉に加入し、動労「本部」に残るものは四名足らずという惨状にあります。

一部の人達は、土屋粋との個人的つき合いを理由に銚子支部の組合員を動労「本部」に連れこもうとしていますが、組織の消滅が目に見えている動労「本部」派へ連れこんだ責任を一体誰がとるのでしょうか。

銚子支部の組合員は、東京革マルの先兵になってはならない

動労東京革マル反動分子は、「五五・一〇ダイヤ改正」において、自からが国鉄当局の合理化に協力する代償として「動労千葉への合理化の強要」のほかに、「東京三局への乗務員予科採用の拡